

令和5年度 学校評価総括表（林小学校）

1 学校教育目標 人権を尊重し、心身ともに健康で、豊かな人間性と確かな学力を備えた、たくましい児童を育成する。

2 本年度の努力目標

- (1)すべての教育活動の場面で、「学習意欲」の向上と「自ら考える力」「関わる力」を育成するため、全教職員で意思統一を図り、指導方法の工夫改善を進める。
すべての教育活動を通して、教職員の授業力の向上を図る。
- (2)道徳性や社会性を高めるため、体験活動や道徳教育・特別活動を充実させる。
- (3)運動習慣の確立と望ましい生活習慣の形成を図るため、学校体育の指導法を見直し、保護者と連携して食育・健康・安全教育を充実させる。

3 総括表 ※ 評価は5段階（S:大変よくできている A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる）

領域	評価項目	評価の観点	自 考 己 評 価 面		次年度への改善点等	学校関係者評価 (学校運営協議員)
			自 考 察 (成 果 と 課 題)	評価		
学 校 経 営	経営方針	学校経営方針の周知	「学校は、重点的に取り組んでいることを分かりやすく伝えているか」という設問に対して、約90%の保護者が「とてもそう思う」「そう思う」と回答している。教職員の評価でも約90%が肯定的に捉えている。よりよい学校経営を行っていく上で、教職員の共通理解と保護者への周知は欠かせないものである。今後も教職員間の共通理解の徹底、保護者への周知に取り組んでいく。	B	・教職員間の共通理解を図るために終礼や校内研修等、機会を捉え周知徹底を図る。保護者には、学校だよりやHP等で具体的な取り組み（キャッチフレーズ）をお知らせし、誰にでも分かりやすい表現にする。	B
	開かれた学校	保護者や地域住民への情報発信・連携	情報発信と保護者・地域との連携において、保護者の92%、教職員の100%が肯定的な評価をしている。今年度もほぼ毎日学校ホームページを更新することができた。また、毎月、学校だより、学年だよりを発行し、学校行事や児童の活動の様子などの情報発信に継続的に取り組んでいる。	A	・縦割り班活動、総合・生活科、人権教育等において、積極的にゲストティーチャーを招き、地域人材を生かした教育活動を実践する。地域教材を活用する。	A
	学級経営	一人一人を主人公にする学級経営の実践	93%の児童が「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と肯定的に回答している。また、教職員の100%が「一人一人の個性や能力を生かす教育ができている」と自己評価している。しかし、「学校があまり楽しくない」（10名）「学校が全く楽しくない」（2名）と回答している児童もいる。この原因を分析するとともに、今一度各学級担任が自らの学級経営を振り返る必要がある。そして、これまで以上に児童の気持ちに寄り添い、仲間づくりを中心に据えた学級経営を行っていかねばならない。	B	・今後も児童理解の時間を定期的に設け、全教職員で共通理解を図り、児童の指導・支援に生かしていく。 ・面談や電話連絡、連絡帳等を通して、保護者との連絡・連携を密にし、同一歩調で児童の成長を促す。 ・「チーム林」として校内支援体制を構築する。	B
	教職員の資質向上	授業力の向上 組織力の向上	88%以上の児童が「授業の内容を理解している」と答えている。教職員は日々教材研究に努め、わかる授業を実践している。また、一人一台端末を効果的に活用した「主体的・対話的・深い学び」となる授業に向けて授業改善に取り組んでいる最中である。今後も校内研修を中心に教職員の指導力向上と授業改善に努めていく。 組織力については、保護者の85%が「教職員がよくまとまり、それぞれが役割を果たしている」と回答している。今後も教職員が一丸となって、児童の指導にあたりたい。	B	・校内研修の充実を図り、教職員一人一人の授業改善や指導力向上に取り組む。 ・ミドルリーダーの育成と若手教員の授業力向上を図るため、メンター制度の充実を図る。 ・今後も、何でも相談できる風通しの良い職員関係の構築を図り、全教職員で児童支援を行う。	B
	環境整備	安全できれいな教育環境の整備	98%の保護者が「学校はよく清掃され、掲示や花壇などきれいな環境である」と回答している。児童の93%も「時間いっぱい一生懸命そうじができている」と回答しており、児童と教職員が一丸となって環境整備に努力していることがわかる。地域の方も落ち葉を掃いてくださったり、体育館や学校周辺の環境整備に配慮してくださったりしている。今後も地域の方や保護者の協力も得ながら安全で整備された学校づくりを継続したい。	A	・清掃時間の取組について、教職員で見直しを図り、日課表や放送の仕方を工夫して、清掃時間の充実に努める。 ・委員会活動（保健委員会・環境委員会等）を中心に、計画を立て、全校児童で活動できる取組を取り入れる。	A
教 育 活 動	学力向上	基礎・基本の定着 学習意欲	児童アンケートでは「進んで読書している」が昨年度63%から本年度85%と大幅にポイントが増えている。昨年度のアンケート結果をもとに本年度は、5時間目が始まる前の10分間の「読書タイム」や「本借りデー」を取り入れ、読書活動の充実を図った。これらの成果が表れていると感じている。「家庭で読書や勉強を自分から進んでしている」と答えた保護者は昨年度55%から本年度51%に留まっている。望ましい読書習慣の定着に向けて、今後も家庭と連携し、児童一人一人の読書習慣並びに学習習慣定着に向けての取組を継続していきたい。	B	・朝の読書時間を確保し、読書習慣の形成を図るために日課表を工夫する。 ・家庭読書の充実を図るために、週末読書や親子読書を取り入れる。 ・本校の実態にもとづく「学力向上実行プラン」を設定し、それに基づく着実な実践を全教職員で行う。	B
	心の教育（人権教育）	人権尊重の精神の育成 いじめ防止	92%の児童が「友達を大切にし、仲良くできている」と答えている。しかし、保護者アンケートでは「学校はいじめは絶対に許されないことを学校教育全体を通じて、子ども一人一人に徹底していると思うか」の回答が83%。教職員アンケートでは、「いじめは絶対に許されないことを学校教育全体を通じて、子ども一人一人に徹底している」に教職員の100%が「できている」と回答している。人権尊重の心情を養う教育を児童の実態に応じて取り組み、保護者への啓発にも継続的に取り組む。	B	・「林小かがやき委員会」の活動を活性化し、定期的・継続的に活動することで、学校全体で人権意識の高揚や仲間づくりを進め、学校での取組を保護者や地域へ発信し、啓発につなげる。 ・校内研修の充実を図り、教職員の人権教育に関する知識・技能の向上に努める。	B
	生徒指導	遵法精神の育成	きまりの遵守や善悪の判断については、児童の90%、保護者の91%が肯定的に評価している。教職員アンケート「子どもに善悪の判断をつけさせ、きまりを守れる指導ができている」には、93%の教職員が「できている」と回答している。今後も道徳の学習を中心に、学校の教育活動全体を通して、きまりの遵守、善悪の判断等についての指導を徹底していきたい。また、学校だよりや学級だより等を通じ保護者との共通理解も深めていく。	A	・育成センターや警察などの関係機関との連携を深め、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材にも引き続き支援をお願いする。 ・道徳や特別活動の時間の指導を充実させる。 ・朝会等で学校のルールの周知徹底を行う。	A
	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立 運動習慣の定着	「早寝早起き」については「よくできている」「できている」と回答した児童が昨年度68%から今年度74%に少しポイント増加している。保護者は「規則正しい生活ができ、進んで運動しているか」という問いに対し、肯定的な評価は昨年度70%であったが、今年度81%に増加している。小学生の睡眠不足も大きな問題となっていて、学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の定着・向上を目指す。 運動習慣については「自分から進んで運動をしているか」という問いに対し、昨年度は児童の約75%が「できている」と回答し、今年度は82%に増加しているが、全国的にも肥満傾向児童の増加が大きな問題となっており、本校も例外ではない。体育の授業だけでなく縦割り班活動を朝の活動や休み時間に取り入れ、児童の運動する時間を確保し、運動習慣の定着とともに体力向上に努めていきたい。	B	・基本的な生活習慣の確立に向け、生活習慣きりりチェックシートを活用し、家庭と連携した取り組みを継続する。 ・縦割り班活動を朝の活動や休み時間に取り入れ、児童の運動習慣確立に努める。また水泳カード・なわとびカード等を効果的に活用し、それぞれの学習終了後には、賞賛の機会を設ける。 ・引き続き徒歩通学、外遊びを奨励する。	B
	安全教育	危機に対処する能力の育成	「災害や事故から自分を守る方法を知っている」と回答した児童は92%と学校における安全・防災教育の成果が出てきているが、保護者は70%となっている。今年度は地震・火災訓練や防犯教室などを計画的に行うことができた。今後も警察、市青少年育成センター等関係諸機関と連携を深め、協力を得ながら児童の命を守るための多様な訓練を実施し、取組を保護者に伝えたり、参観日に実施したりして啓発に努める。	B	・児童が防災教育で学んだことを家庭で保護者と話し合う機会がとれるようにワークシート等を工夫する。 ・多種多様な避難訓練を実践し、児童の防犯・防災意識や実践力の向上を図る。	B

4 学校運営協議員さんからのご意見

- ・縦割り班活動が、積極的に取り入れられている。引き続き、縦割り班活動に取り組み、体験的な異学年交流を実施すべきである。
- ・「早寝早起き」の目的は、朝食を食べることではないだろうか。「朝ごはん」の項目をアンケートに入れたらどうか。
- ・不登校児童への対応は、御苦勞が多いと思うが、学校だけで抱え込まず、関係機関と連携を図り、切れ目のない支援をしてほしい。
- ・学校評価アンケートに教職員の働き方改革についての評価項目を入れたらどうか。

5 総合評価

児童アンケートから昨年度の課題にあがった「読書習慣の確立」「早寝早起き」は、具体的な取組の実践により、ポイントを増加させることができた。しかし、保護者アンケートの「読書習慣の確立」については、ポイントが減少してしまった。望ましい読書習慣の定着に向けて、今後も家庭と連携し、家庭読書の充実を図る。重点目標に対する取組を学校だより、学年だより、保健だより、HP、授業参観、家庭訪問、個人懇談など、あらゆる機会を通して継続的に家庭へ